

18. 数直線上の原点に点Aがあり、さいころを投げて、奇数の目が出れば、出た目の数だけ正の方向へ、偶数の目が出れば出た目の数だけ負の方向へ移動する。右の表は、さいころを何回か投げたときの出た目の数とその回数を示している。ただし、6の目が何回出たかはわからない。この場合について、次の問いに答えなさい。

目の数	1	2	3	4	5	6
回数	3	5	4	2	1	

(1) 6の目が3回出たとするとき、点Aの数直線上の位置に対応する数を求めなさい。

(2) 点Aが数直線上の-28の位置に移動したとするとき、6の目が出た回数を求めよ。

19. 右の表は中学生A、B、C、D、Eの垂直跳びの記録について、この5人の平均値45cmを基準にして、表したものである。表中の□にあてはまる数を求めなさい。

生徒	平均値45cmとの 違い(cm)
A	+3
B	-4
C	
D	+12
E	-9

14 (1) × (2) × (3) ○ (4) ○
 15 (1) 問い合わせ件数が最も多いのは8月、最も少ないのは5月である。
 よって $(+15) - (-18) = 15 + 18 = 33$ ④ 33件
 (2) 5か月間の、4月との違いの平均は
 $(0 - 18 + 12 - 4 + 15) \div 5 = 1$
 したがって、平均の78件は、4月の件数より1件多いことがわかる。
 よって、4月の件数は $78 - 1 = 77$ より77件ゆえに、5月の件数は $77 - 18 = 59$ より59件
 16 (1) A、B、C 3人の得点の平均点は50点で、
 $(+11 - 16 - 7) \div 3 = -4$ であるから
 E君の得点は $50 + 4 = 54$ ④ 54点
 (2) E君との違いの平均は
 $(+11 - 16 - 7 + 22 + 0) \div 5 = 2$
 (1)の結果より、5人の得点の平均点は
 $54 + 2 = 56$ ④ 56点
 17 (1) $81 \square \div 9 - 15 \square \times 3 = -36$
 (2) $(-12) \square \times (-3) + 48 \square \div (-4) = 24$
 ■ p.15 ■
 18 (1) $(+1) \times 3 + (-2) \times 5 + (+3) \times 4$
 $+ (-4) \times 2 + (+5) \times 1 + (-6) \times 3$
 $= 3 - 10 + 12 - 8 + 5 - 18 = -16$
 よって、Aの位置に対応する数は-16
 (2) 6の目が□回出たとすると、Aの位置は
 $(+1) \times 3 + (-2) \times 5 + (+3) \times 4$
 $+ (-4) \times 2 + (+5) \times 1 + (-6) \times \square$
 $= 3 - 10 + 12 - 8 + 5 - 6 \times \square$
 $= 2 - 6 \times \square$
 よって $2 - 6 \times \square = -28$
 $2 - 30 = -28$ であるから $\square = 5$
 したがって、6の目が出た回数は 5回
 19 平均値45cmとの違いの平均値は
 $(+3 - 4 + \square + 12 - 9) \div 5 = \frac{\square + 2}{5}$
 この値が0となるから $\square + 2 = 0$
 したがって $\square = -2$